

2

次の文章は、教育学者の汐見稔幸しほみねとしゆきが書いた文章である。これを読んで、①～⑥に答えなさい。

あなたの目の前に何本か木が生えていたとしましょう。木に全く興味のない人にとつては、どれも「木」ですが、木に興味のある人にとつては、違うものに見えます。

「これはケヤキ。これはブナ。こっちはミズナラかな」

存在している木の世界に区切りを入れ、一定の分ける基準を知ることの違いを認識できる。言葉や名前を知って見分けることは、世界の分節の特徴を知ることと同じです。言葉や名前と分節の特徴を紐ひもづけて見分けられるようになったとき、その対象についての理解が深まっています。

言葉や名前を知ることには、「学び」の第一歩として、実はとても大きな意味があります。世界を認識していくための最も初歩的な方法であると同時に、その対象と自分の距離を近づける入り口に立つ行為だと言えるでしょう。

言葉・名前を知ると、次に、その対象の属性に興味が湧きます。属性というのは、備わっている性質や特徴のことです。これが「わかる」の第二のレベルです。

「この木はマユミ。とてもしなやかな木で、昔はこの木でつくった弓が一番いい弓だとされていた。そのため真弓と呼ばれるようになった」

④ その対象が持つ属性を知ること、いろいろな知識が紐づけられてくると、自分にとって親しみが持てるものになっていきます。

たとえば、「鳥居」について属性を知りたいと思ったとき、その色が気になったとします。「なぜ朱色なんだろう」と調べてみると、その朱色は硫化水銀でできた鉱物で毒性もあり、魔除まよけや防腐剤として使われてきたことがわかります。太陽のイメージを持つ朱色に願いを込めていたのかもしれない。属性を知ると、「鳥居」についてさらに深く興味が湧きますし、派生して「魔除け」についての興味が湧くかもしれません。

なぜそうなっているのか、それがどういういきさつでできたのかなど、物事の⑥ ウラにあるそのものの属性に興味を持ち、知れば知るほど、そのものに対する思いが深まっていき、その対象の背後にある属性、隠れている属性を少しずつ明らかにしていくことになり、それが喜びとなって、関連することを「もつと知りたい」という気持ちも生まれます。

言葉・名前を知り、その属性を知ると、現象の背景にある法則にも気づけるようになっていきます。これが「わかる」の第三のレベルです。

〈中略〉

知識を並べて、一見つながりのないものも、実はつながっているのではないかと仮定し、それまで見えなかった法則が見えるようにつなげていく。このようにして現象の背景にある法則を明らかにすることは、学問と行われている行為そのものです。

言葉・名前、その属性を知るところまでは、**A**を増やせばできるのですが、その背景にある法則を見つけるためには、特化した思考やつながっていないものをつなげる努力が必要になります。その対象に関する **B** と言ってもいいでしょう。

〈中略〉

法則を見つけ出すまでに至らなくても、言葉を上手につなげることで、その対象との距離が変化し、関わり方が更新されることがあります。

分節したものを再び統合していく⑤ サギョウは、そんなに難しいことばかりではありません。私たちは日常から行っています。

「風が吹く」と「私は涼しいと感じる」を「から」でつなげると、「風が吹いた、から、私は涼しいと感じる」となります。「から」ではなく「けれども」でつなぐと、また別の因果になります。私たちは、こうして④ 世の中に起っている現象を因果関係でつなげています。

世界を⑤ 分節した言葉や名前を知った上で、その属性を知り、さらに、世界を切り分けたその言葉、その名前どうしをつなぎ直して法則を見つけ出す。もしくは、そのものと私の関わり方を決める。そのものの価値判断をするために言葉をつなげて命題をつくって

いく。

こうしたことを繰り返しながら、「脳の中に情報処理の回路が新しくできる」。これが「**f** 学び」だと私は考えています。

出典 汐見稔幸『教えから学びへ 教育にとって一番大切なこと』

① ———の部分**b**・**c**を漢字に直して楷書で書きなさい。

② 「**a**」その対象が……持てるものになっていきます」とあるが、筆者がどのように述べる理由として最も適当なのは、**A**、**ウ**のうちではどれですか。一つ答えなさい。

A 対象が生み出されたいきさつを探る中で、対象に携わった

人々の感情にも触れ、対象への興味がさらに湧いてくるから。

イ 対象の属性を調べる中で自身の知識が深まることに喜びを感じ、人に認められたいという欲求が生まれてくるから。

ウ 対象ができた過程を掘り下げたり隠れた意味を考えたりすること、さらに世界を広げたいという意欲が湧くから。

エ 属性を知る行為は、対象の本質を明らかにすることであるため、対象に価値があるかを見きわめられるようになるから。

③ **A**・**B** にそれぞれ入れる言葉の組み合わせとして最も適当なのは、**A**、**ウ**のうちではどれですか。一つ答えなさい。

A 知識 **B** 専門性 **イ** A 興味 **B** 親和性

ウ A 命題 **B** 対応力 **エ** A 情報 **B** 想像力

④ 「**d**」世の中に……つなげています」とあるが、こうすることの意味を説明した次の文の **a**、**b** に入れるのに適当なことばを、**a** は六字、**b** は四字で文章中から抜き出して書きなさい。言葉のつなぎ方を変えることで、**a** が変わり、そのものと自分との関わり方や、**b** が改まるという意味。

⑤ 「**e** 分節」と熟語の構成（組み立て）が同じものは、**A**、**ウ**のうちではどれですか。一つ答えなさい。

A 判断 **イ** 予見 **ウ** 私的 **エ** 帰国

⑥ 「**f** 学び」について、先生と二人の生徒が話しています。**X**、**Y** に入れるのに適当なことばを、**X** は三十文字以内で書き、**Y** は九字で文章中から抜き出して書きなさい。また、**Z** に入れる具体例として最も適当なのは、**A**、**ウ**のうちではどれですか。一つ答えなさい。

先生 「学び」について、筆者は情報処理の回路にたとえています。これはどういうものでしょうか。

夏子 まず言葉や名前を認識し、属性を把握し、法則を見つけ出す過程だといえます。筆者は、最初に「学び」のきっかけについて、言葉や名前を知ること、**X** ことが、対象についての理解を深めていくのだと述べています。

太郎 その後、属性を知った上で、ばらばらに見える言葉や名前、属性を並べて、それらが **Y** と仮定し、思考を重ねて法則を見つけることこそが、学問である。と筆者は主張しています。

先生 そうですね。言葉や名前、属性を知ることから、さらに進んだこととして法則があるといえますね。例えば **Z** は法則を見つけようとする行為です。

A 感覚を「痛い」「かゆい」などの言葉で区別すること

イ カメラとメガネの仕組みの共通点を探ること

ウ 世界各国の首都名と地図上の場所を暗記すること

エ ある外国語を学んで、自分で日本語に翻訳すること

令和四年度 岡山学芸館高等学校 選抜一期入試【二月二十七日】 問題（国語）

3 ①～④に答えなさい。

次の文章は、兼好法師が書いた『徒然草』の一節を引用しながら書かれた解説文である。これを読んで、

受験番号
算用数字

鯉こいがおいしい季節になった。黒潮に乗って北上するこの魚は、春に四国沖から紀州沖へ、青葉の季節に相模灘沖にやってくる。その頃は脂が乗って最も美味とされるので、江戸っ子は初鯉のために千金を投じて惜しまなかったという。

しかし、『徒然草』が書かれた時代には、それほど魚ではなかった。鎌倉の海に鯉という魚がいて、その地方ではこの上ない魚として最近もてはやされている。だが土地の古老が言うには、「わしらが若かった頃は、相当な人の前へは出なかつた魚で、頭は下男も食わずに切り捨てたものさ」。こんなものでも、世の末になると上流の食卓にものぼるようになったのだ。と、いささか慨嘆味に書かれている。

兼好は若い頃、武蔵の国金沢（現在の横浜市金沢区）に住んでいたことがあり、その後も何度か関東を訪れ、東国の事情にも詳しくかつた。東人と都人の相違に触れた一四一段は興味深い。

あづま人こそ、いひつることは頼まれる。都の人は、ことうけのみよくて、実なし。

東人は信頼できるが、都の人は口先ばかりよくて誠意がない、と言った人に、悲田院の堯蓮上人がこう弁明した。

「都に長く住んで馴染んでみると、都人の心が劣つていとは思えない。都の人はいったいに心が温和で、情が厚いので、頼まれたことをはっきり断われず、つい心弱く承諾してしまうのだ。偽るつもりはないのだが、貧乏で不如意な人が多いので、なかなか思い通りにはゆかないのだろう。

東は私の生国だが、実は心が単純で、人情も粗野で正直なので、できないことははじめからきっぱり断わってしまう。一般に豊かな人が多いので、人に信頼もされるのだろう。」

もとは武士だったというこの上人、言葉に訛があつて声も荒々しく、とても仏典のこまやかな教理などわかりそうもないと見ていたのだが、「この一言の後、心にくくなりて」兼好はその説を書き記したのであった。

時代背景は異なるものの、関西人と関東人の受けこたえの違いは、今なお歴然としているようだ。京大阪の人に「考えておきます」「あとで電話します」と言われたら、それは「ノー」ということだ。

当時、都の上流階級の人々は、どんな魚を召し上がつていたのだろうか。代表格は中国で古来「魚之王」と称されていた鯉である。「鯉ばかりこそ、御前にても切らるる物なれば、やんごとなき魚なり」と『徒然草』にもある。

その別当入道（藤原基氏）は、並ぶ者のない包丁の名人だった。ある人の所で立派な鯉を出したので、その座の者は皆、別当入道の包丁さばきを見たいと思つたが、気安く言い出すのはばかられるので遠慮していた。

入道はその場の空気を読む人だったので、こう申し出た。「このところ百日間鯉を切ることにしていますので、今日だけ休むわけにもゆきませぬ。是非それをいただいて切りましょう。」座が湧いたのは言うまでもない。実にその場に似つかわしくおもしろかつた。ある人が北山太政入道殿に申し上げた。

すると北山殿、「そういうやり方は嫌味だな」とおっしゃつた。「切る人がないなら下さい。切りましょう、と言つたら、もつとよかつただろう。なんで百日の鯉を切るなんてわざとらしいことを」。兼好は別当入道の意図的な趣向よりも、北山殿の批判の方に共鳴している。

大方、ふるまひで興あるよりも、興なくてやすらかなるが、まさりたることなり。

向をこらさずあつさりしたのがいい、というわけだ。客のもてなしなども、しかるべき口実はなくなつていいのだ。人にものをやるにしても、理由などなしに「これあげましょう」と言うのが「まことの志なり」。

傾聴すべき言葉である。さらに兼好は語る。惜しむようなふりをして欲しがらせたり、勝負の賭物などにかこつけるのは、見苦しいそんなことをした覚えはなかつたか、思わず来し方をふり返らせる力のある段である。好意を示すのに理由はいらぬ。

さて、鯉そのものは一年中見られ食べられるので季語ではないが、「洗鯉」は夏の味覚。刺身より薄身に削いで冷水で洗つて身を緊めた料理法は、いかにも涼感を呼ぶ。包丁の名人たる者、衆目を集めつつ鯉を切るに絶好の料理だつたことだろう。

出典 西村和子『季語で読む徒然草』

(注) 慨嘆…うれないげくこと。
上人…高僧に対する敬称。
不如意…ここでは生計が苦しいこと。
生国…ここでは生まれた土地。
その別当入道…生家の四条流包丁の家から分派して團流を開いた人物。
北山太政入道殿…西園寺兼実のこと。鎌倉時代後期の公卿。

① 「ふるまひで」の読みを、現代かなづかいを用いてひらがなで書きなさい。

② 『徒然草』を文学史のジャンルで分けたとき最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

- ア 日記文学
- イ 説話文学
- ウ 随筆文学
- エ 歌論書

③ 「この一言の後、心にくくなりて」の説明として最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

- ア 東国出身の上人が、都人を貧乏で不如意であるという失礼な言い方をしたため、上人のことを心の底から憎々しく思つたということ。
- イ 東国出身の上人が東人と都人のどちらも立てながらそれぞれの氣質をうまく言い表したため、上人に心をひかれるようになったということ。
- ウ 上人の言葉には訛があり、いかにも田舎者であつたにもかかわらず、都人の心情を言い当てたため、上人の人柄がわからなくなつたということ。
- エ もとは武士だつた上人が鋭い人間観察力を披露したため、武士は心の機微を解さないと思ひ込んでいた自分を深く反省したということ。

④ 「傾聴すべき言葉である」とありますが、筆者は、兼好の言葉からどのような気持ちになりましたか。次の文の X、Y に入れるのに適当なことをばを、X は文章中から五字で抜き出して書き、Y は十字以内で書きなさい。

人に対して、ものをあげるなど X ときに、わざとらしく理由をつけてもつたいぶるようなまねをしたことはなかつたかと、思わず Y を見返すような気持ち。

だいたいわざとらしく振舞つておもしろそうに見せるより、趣

4 四人の中学生が、住みやすいまちづくりをテーマとするグループ学習で、【資料Ⅰ】～【資料Ⅲ】をもとに話し合いをした。次の【四人の中学生の話し合い】を読んで、①～④に答えなさい。

【四人の中学生の話し合い】

光太 今日自分たちの住むまちを振り返り、住みやすいまちづくりについて考えてみよう。

健二 2016年度と2021年度に私たちの中学校で行われたアンケート結果をまとめた【資料Ⅰ】を見ると、Xことがわかるよ。そこから考えると、自分の住むまちに満足している人が多いと言えそうだね。

良美 うん、そうだね。それに、【資料Ⅱ】を見ると、大人になっても今住んでいるまちに住みたいと考えている人が半数以上いることがわかるよ。

光太 たしかに。そして、住み続けたい一番の理由が「友達がいるから」って僕も同じだね。何かあったとき相談したり、助け合ったりできる友人が側にいてくれると心強いよね。

健二 うん、そう思う。「友達がいるから」の次に多いのは「自然が多くて環境がいいから」という回答だね。森林や自然公園もあるからかな。僕も小学生の頃は公園に遠足に行ったし、家族でもバーベキューをしに行ったよ。

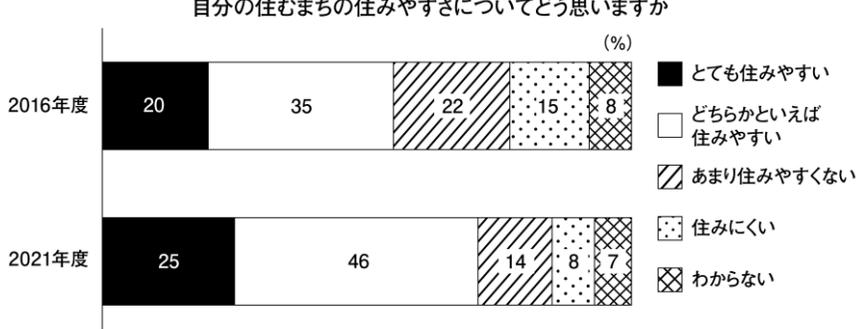
桃花 緑が多いことは住みやすさにつながるよね。「生まれ育った場所でのまちが好きだから」の回答が三番目に多いけど、地元を愛する気持ちが、まちをもっと良くしようという、まちづくりの動きにつながるのかもしれないね。

良美 うん。そして、若い人たちが地元を愛着をもって住み続けたり、いったんまちを出ても地元に戻ってきたりすれば、まちが高齢化していくことも防げるしね。その他に、この「安心して住めるから」というのはどういうことだろう。

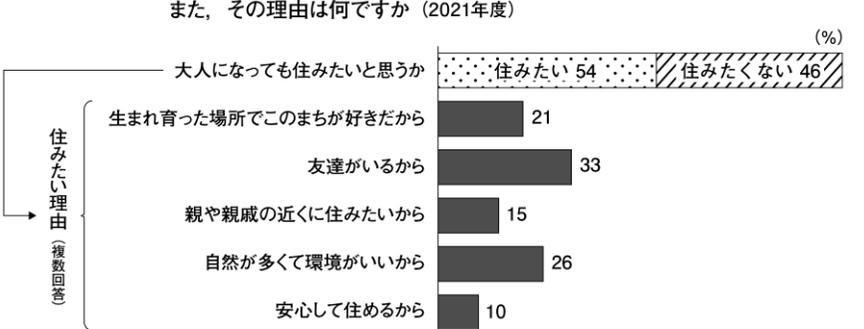
桃花 【資料Ⅲ】を見て。住みやすいまちとはどんなまちだと考えるかを自由に書いてもらった回答を、部分的に抜き出したものだよ。これを見ると、「安心」というのは、防犯や防災などに対する取り組みがあるってことじゃないかと思うよ。治安がいいとか災害に強いとか。

良美 なるほど。「住みやすさ」も人それぞれだね。まちづくりには、どんなまちになればよいか具体的にイメージすることも大切だね。僕は、将来、自分のまちが【資料Ⅲ】にあるYになったらいいと思うな。なぜなら、Z

【資料Ⅰ】 自分の住むまちの住みやすさについてどう思いますか



【資料Ⅱ】 今住んでいるまちに大人になっても住みたいと思いますか また、その理由は何ですか (2021年度)



【資料Ⅲ】 あなたが考える住みやすいまちとはどんなまちですか (2021年度 自由記述 一部抜粋)

ア 子育てがしやすいまち。
 イ 高齢者が暮らしやすいまち。
 ウ 交通の便がいいまち。
 エ 防犯・防災対策が十分なまち。
 オ 地域の歴史や文化を大切に守るまち。
 カ 環境への負荷に配慮したまち。

- ① 「部分」とあるが、「部分」の対義語を漢字二字で書きなさい。
- ② 健二さんの意見が論理的なものとなるために、Xに入れるのに最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。
 ア この5年間で、自分が住むまちはあまり住みやすくない、住みにくいと感じている人の割合は、15%増加している
 イ この5年間で、自分が住むまちを住みやすい、どちらかといえば住みやすいと感じている人の割合は20%以上増加している
 ウ この5年間で、自分が住むまちの住みやすさについて、わからないと回答した人の割合は1割弱でほぼ変化はない
 エ この5年間で、自分が住むまちに住みやすさを感じている人の割合は増加し、2021年度は総じて7割を超えている
- ③ 話し合いにおける四人の発言の特徴について説明したものとして適当なのは、ア～オのうちではどれですか。当てはまるものをすべて答えなさい。
 ア 光太は、資料の結果を自分に照らし合わせ、資料の回答に共感する意見を述べている。
 イ 健二は、資料から読み取った事実を示し、その理由を自分なりに推測している。
 ウ 良美はそれまでに出た発言を受け、自分の体験をもとにした意見を述べている。
 エ 桃花は、良美の質問に対して、別の資料を提示し、その内容を踏まえて答えている。
 オ 光太は、良美の発言を受けて自身の考えを述べ、良美の司会進行を助けている。
- ④ 光太さんの発言のY、Zに入れるのに適当な内容を、Yはあなたが関心のある項目を【資料Ⅲ】ア～カのうちから一つ選んで答え、Zは条件に従って六十文字以上八十文字以内で書きなさい。

条件
 1 二文に分けて書き、一文目に、Yでその記号を選んだ理由を書くこと。
 2 二文目に、Yのまちづくりに向けた具体策を「そのためには、」に続けて書くこと。